

# 教区だより

2017

4月

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

第341号



3

特集

## 「男女共同参画実行委員会」

～宗門における男女平等参画をめざして～

4

## 出会いの窓 拡★版

蓮如上人御影道中（御上洛）のお宿である近江第10組ほうまんじ寶満寺を取材しました。

5

連載

## 大乘仏教一釈尊觀のしんか深化一

《第12回》『般若經』はどのような經典か

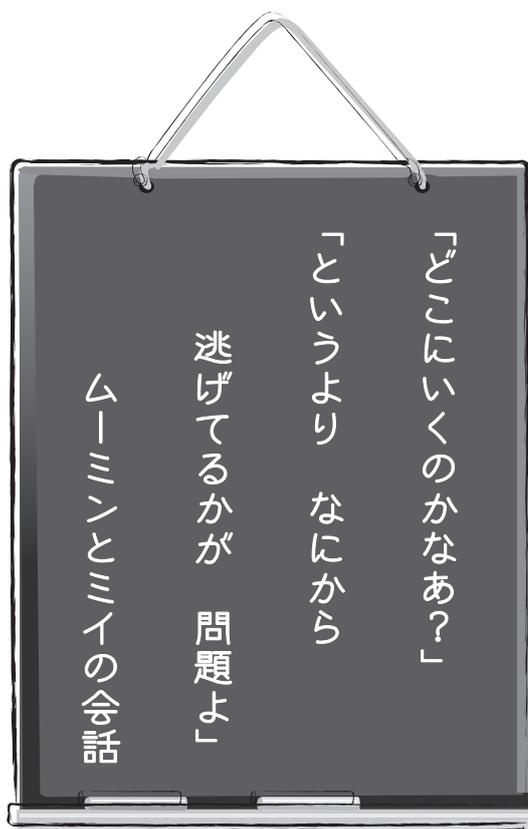
おだ あきひろ  
織田 顕祐 氏

6

今という時代／出会いの窓

7

京都教区教化レポート（教区准堂衆会）



## 京都教区の動き

### 門徒・推進員研修小委員会 奉仕団 上山

二月二十日(月)～二十一日(火)、同朋会館において門徒・推進員研修小委員会委員による上山奉仕が実施されました。

教導に奥羽教区の高名和丸先生、補導に岡崎教区の石川慧悟さんを交え、教化ということをテーマに真宗本廟奉仕団の一泊二日の生活を送りました。

委員会での会議事項でしか話をしなかった各委員が、寝食を共にすることにより、教化ということ、それぞれの立場から深く考え、高名先生のお話とお聖教の言葉に確かめ、話し合う事ができました。

これまで門徒・推進員研修という教化の部門に身をおきながら、教化とは何か、どういう姿勢で臨むのか、あいまいにしながら事業をこなしてきていたことに気づかされ、同朋会館の場での委員同士の関係性も強くなり、残りの事業を自らも



教化される場にしていこうと、引き続き開催された会議で確認しました。  
(門徒・推進員研修小委員会副主査 長 紀子)

### お寺の子ども会サポート公開研修会

二月二十二日(水)、教区会館大講堂において、第一回お寺の子ども会講座(青少年研修小委員会主催)が開催された。

ご講師には、佐賀枝夏文氏(高倉幼稚園園長、大谷大学名誉教授)をお迎えし、「子どもたちとの接し方」をテーマとして、ご自身の経験をお話していただいた。

まず、何をするにも理由をもち、達成することに重きを置く有為な大人にする為に子ども会をするのではなく、行動に理由を持たず【味わう】事を自然な姿とする「無為な子どものまま」に、人生を味わうような生き方に導けたらいいと思いませんか?と優しい口調で子ども会の方向性をお示しいただいた。子ども会とは、人生を味わう事を忘れてしまっている私たち大人が、逆に無為な子ども達に導かれていく場なのかもしれないと考えさせられた研修会だった。

(青少年研修小委員会委員 増田 義弘)

### 『教区だより』公開講演会

三月六日(月)、教区会館大講堂において、『教区だより』公開講演会が開催された。講師は、大谷大学教授、織田頭祐先生。「大乘仏教―積尊観の深化―」という題で、昨年四月から連載として執筆いただいた内容を、さらに深めてお話くださった。

文字ですでに読んでいたことについても、直接先生の口からお聞かせいただくと、すんなりと言葉が入ってくるのを感じ、改めて公開講演会の意義を確認できた。今月号を含めて残り四回、より楽しみになった。

(編集委員 東 美恵子)



——特集「男女共同参画実行委員会」——

## 宗門における男女平等参画をめざして

男女共同参画実行委員会 委員  
長嶋 明子

男女共同参画実行委員の特集です。

今年度より各地区を巡回して研修会を開催していきます。この研修会を巡回開催するにあたり、これまでの経緯や委員会活動の中で浮かび上がってきた課題、また講師の方からの指摘を踏まえて、委員としての願いを語っていただきます。

解放運動推進本部・女性室とのご縁により、大谷派宗門における女性差別を考える機会をいただきました。京都教区男女共同参画実行委員会では「男女両性で形づくる教団をめざして」をテーマに二〇一二年度は「女性への暴力」、二〇一三年度「DV（ドメスティックヴァイオレンス）」とは？、「二〇一四年度「セクシャルハラスメントとは？」で、ウィメンズカウンセリング京都代表・NPO日本フェミニストカウンセリング学会理事で被害者女性に深く関わっておられる井上麻耶子先生に、そして二〇一五

年度は井上先生からの提案で男性加害者に関わっておられる立命館大学産業社会学部の中村正教授に「セクシャルハラスメントにいたる男性の心理―加害への対応の経験から―」と題して講義をいただき、公開研修会を開催しました。さらに二〇一三年度には教区内の女性住職、女性坊守、その他（お寺にお住まいの成人女性）を対象に無記名でアンケート調査を実施しました。その結果、差別を感じない、現状のままですよと回答した方が七割にも及んでいたのです。これについて井上先生は、寺院という文化の厳しき、差別を感じていてもその文化がそう言わせないと指摘されました。

被差別者が声を上げることによって家庭の中で摩擦が生じ、相手との関係性が崩壊しその事で経済的困難を強いられたり、社会的立場が失われていく恐怖があるのではないのでしょうか。経済に翻弄されているのかもしれないという意識が希薄になっているのかもしれない。

井上・中村両先生がおっしゃっていたのは男性の差別者意識の低さがありますが、井上先生

は女性自身もあぐらをかいているようではだめと、このアンケートにおける女性の被差別者意識の低さを問題にされていました。

大谷派教団のような男性中心の社会の中で女性差別解消を男性側に期待するのは困難ですから、一人でも多くの女性が団結して声を上げる事で男性優位が至極当然のようにまかり通っている現状を変えることができると考えます。

差別は無くならない、という声を聞く事があります。浄土に差別はありません。それは本願に誓われているからです。第十八願に十方衆生と誓っているにもかかわらず、再度三十五願に女人成仏が誓われています。寺院で男子が生まれると尊ばれるが、女子の場合はそうではないこともありまます。それは寺院の後継者は男性の方がよいという概念があるからです。

本願に遇うところに差別をしない人間が生まれ出されてくるのです。「りようし・あき人、さまざまなのは、みな、いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」と本願にひらかれた絶対平等の世界において「われらなり」と言われ、念仏に生涯を貫かれた親鸞聖人の教えは差別からの解放です。

今年度からは地区巡回にて公開研修会を開催します。多数の方のご参加をお待ちしております。

# 出合いの窓 拡大版

## —蓮如上人御影道中のお宿 寶満寺—

寶満寺（近江第10組）を訪れたのは昨年（2016年）の5月7日でした。寶満寺は蓮如上人御影道中のご一行が御上洛される際の定宿であり、この日が寶満寺に宿泊される日でした。お迎えの準備に忙しい中、ご門徒の方々のお話を聞くことができました。

寶満寺は滋賀県愛知郡愛荘町愛知川にあります。旧中山道の宿場町である愛知川は田園が広がり、近江上布として知られた高級麻織物の盛んな地域です。特に近江商人発祥の地の一つである五個荘は愛知川の対岸にあり、愛知川宿は交易で栄えた宿場町でした。また、寶満寺には親鸞聖人お手植えの紅梅があることも有名で、古くから本願寺とのお縁のあった地域です。準備をしておられるご門徒の方が「わしらは先祖代々、この御影道中のお世話をさせてもらっておる。そういうご縁をご本山と結ばせていただいていることを誇りに思っとる」と仰っておられたのが印象的でした。

門徒会館では今晚のお齋の準備に追われておられました。「近隣で採れた野菜を中心に、毎年メニューを変えて作っています。筍の木の芽和えに、根菜の煮物、酢の物にサラダ、またまだ作りますよ～」と仏教婦人会の皆さん。「今年は10歳の

男の子がいるって聞いたもんですから、その子が食べたくなるようなものも入れないと」と笑ってお答えくださいました。

夕方になると講衆会とよばれる男性のご門徒の方たちが集まってこられました。これから御影道中のご一行をお迎えに行かれるそうです。どこまで？と伺ったら、愛荘町愛知川の北端にある宇曾川に架かる「歌詰橋」までと。えっ、2km以上あるじゃん！と思いましたが、次々と歩いて出発されます。御影道中のご一行が来るまでの間、お話を聞くと各町々の代表の方だそうです。「この宇曾川から愛知川までがわしらの受け持ち。お迎えして、無事にお送りする。これが仕事」と笑っておられました。



夜の帳（とばり）がおりようかとした時に御影道中のご一行が宇曾川に差し掛かりました。講衆会の方々は意気揚々と先導に立ち、寶満寺までの暗い道を提灯のあかりで道を照らしながら進んでいきます。

先回りして、寶満寺に戻ると、参道前には多くのご門徒や、近隣のご住職方が到着をまだかまだかと待っておられました。到着後、法要が勤まります。気が付けば寶満寺の広い本堂が

参拝の方で満堂です。たくさんの方々がこの御影道中をお待ちになっていたということがよくわかる光景でした。随行教導がご法話の中で、「この御影道中を行事にしないでください。お仏事としてお迎ください」と話されましたが、ここ寶満寺での御影道中はもはや行事の域を超えていると感じます。それは今日出会った方々の誰もが、気負うというわけでもなく、肩肘張らずというか、あたかも普段接するかのよう蓮如上人をお迎えされているからでしょうか。蓮如上人御影道中がこの地に連綿と息づいてきた歴史を感じます。

5月8日早朝、大勢のご門徒の見送りの中、御影の出立です。「れんにょ～しょうにん～、ご出立～」の掛け声と共に寶満寺講衆会の方々はさっそうと先導に立ち、愛知川を渡るまでお送りしていきました。

（編集委員 蒲池 義圭）





前回紹介した、もつとも早い時期に成立した大乘経典である『般若経』、『無量寿経』、『華嚴経』の入法界品と十地品などは、いずれも大乘仏教の思想的な発展と共に経典自身が大きく姿を変えて行きます。こうしたことは、同じ経典が翻訳されるたびに内容や分量が大きく変化することなどによって知ることができま。インドの原典から漢文に翻訳されたのですから、翻訳にあたって異なる文化がぶつかりあつて、経典が表現を変えていくことは十分理解できます。しかしそれ以上に大きいのが、翻訳された時代によって経典の内容

が変化することです。

みなさんの中には、『般若心経』という経典をご存知の方も多いと思います。僅か三百字ほどで大乘仏教の心髄を表現する経典ですが、『般若経』の展開において最初にこの経典が存在したわけではありません。また、有名な玄奘三蔵が翻訳した『大般若経』は六百巻という途方もない分量を持っていますが、これも最初から存在していたわけではありません。これと同じように、『無量寿経』も『華嚴経』も時代の課題を担って、経典自身が姿を変えていったのだと考えられます。このようなかかわりから、大乘経典の豊かな世界に入っていくためには、文字を読めばわかるはずだという単純な発想では不十分です。こうした課題について、私たちの大先輩である金子大栄先生は、「経典三学」(『金子大栄選集』十二巻所収)という視点を提起されました。きわめて重要な考え方ですからここで紹介しておきたいと思ひます。

経典三学とは、「経典宗学」「経典史学」「経典文学」の三つを言ひます。「経典宗学」とは、その経典が私たちに何を教えようとしているのかを明らかにすること。「経典史学」とは、その経典がいつどのようなようにして成立したかを明らかにすること。「経典文学」とは、その

経典の表現方法に注目することです。この三つの視点を重ね合わせなければ、大乘経典の思想内容は明らかにならないと提唱されたのです。先に挙げた三つの代表的な初期大乘経典に限つても、それぞれが独自の表現方法とテーマを持つていているように思われますが、この経典三学という視点によって考えてみると、それぞれが共通する点を見つけることができると思ひます。

経典三学の視点から見れば、『般若経』は般若波羅蜜が「法」であると言ひます。「般若波羅蜜」によつて仏が生まれる」と明確に説きますから、仏を生み出す「法」を般若波羅蜜と言ひます。智慧(般若)が完成した状態(波羅蜜)という意味です。『般若経』は、あらゆる物事が全て「無所得空である」「不可得空である」と繰り返し何度も説いています。釈尊の言葉が「法」であるとする立場を一つ残らず論破していく内容となつて居るのです。そのため、極めて論理的で物語によつて何かを伝えようとする経典ではありません。ではこの「無所得空」「不可得空」と説かれることはどのようなことなのでしょう。この点は、次回に述べたいと思ひます。

# 今という時代

私が幼稚園児だった頃、毎朝母親と別れる時に泣いていたそうです。四十年近く前のことですが、先生に抱えられ泣いている自分の姿を覚えていません。三歳の息子は毎朝ほとんど泣くことなく保育園に通い友達と楽しく遊んでいるようで、頼もしさを感じていました。

しかし、一月の終わりのある夜、息子が「明日保育園に行きたくない」と言い出しました。「お昼寝の時間がイヤ。眠たくない」。妻が「眠たくないのであれば、目を閉じて横になるだけでもいいよ」と言うと、息子は少し落ち着いたようでした。

翌朝、保育園で先生に息子の様子を訊ねると「いつもきちんと昼寝していますよ」とのことでした。先生と息子の言っていることが違うところが気になりましたが「寝ているのだから、まあいいか」と深く考えませんでした。しかし、妻は息子のことばの奥に伝えきれない何かがあると感じたようでした。

お迎えの時に妻が先生と話したところ、ここ数週間昼寝中に息子が泣き出すことが何度かあったそうです。先生が「どうしたの?」と聞くと、「おしっこ」と言うので、「おしっこはしたくなったら行っていいんだよ」と伝えたら、そのうちに昼寝中にひとり起きて、トイレを済ませるとすぐに眠りに戻ったとのことでしたが、

妻はここにひっかかりを覚えたようです。

その日の帰り道、妻は息子と色々話をする中で、「もしかして、皆が寝ているのにひとりだけ起きてトイレに行くことがイヤやったんか?」と訊ねると息子は頷きました。先生から昼寝の間は起きたらダメと言われていたので、たとえ行ってもいいよと言われても、息子は昼寝の最中に起きることは先生の言い付けを破ることだと感じていたらしいのです。そうは言っても、おしっこがしたくなると目が覚めてしまう。そのことを「眠たくない」ということばで伝えられたようでした。

大人にとつては取るに足らないことでも、子どもにとつたら大きな問題ということがあります。一回言われただけでは理解できないこともあるでしょう。妻の「トイレは行きたい時にいったらいいんだよ。先生も言っていたよ」ということばにようやく息子は安心したようでした。

た。昼寝用の布団を暖かいものに変えると、昼寝中に起きることもなくなりました。

親鸞聖人が関東の門弟に送られた手紙に「もの同朋にもねんごろのころのおわしましあわばこそ」と書かれています。「ねんごろ」というのは、相手の気持ちを思いやる心、その心をもって相手に聞くということの意味しているそうです。

妻が息子と同じ視線になり、伝えたいことを聞きとろうとするその態度に「ねんごろ」の意を感じました。同時にいつも妻に言われている「私が話している時はきちんと聞いて」「聞こえていたら返事して」ということばが思い起こされました。自分がいかに普段の生活の中で「ねんごろ」を忘れていくか気付かされ、自分の態度を改めていこうと決意しました。

(編集委員 本多 真)

## 出 会 い の 窓



5月14日～16日、自坊本堂(光圓寺 〒6008448 京都市下京区藪下町7)を会場に、「原爆と戦争展」を開催する。以前から公共の場の他、岡崎別院や京都、滋賀のいくつかの教区内寺院でも開催されてきた企画展です。他寺院開催時、「ポスター張らせて下さい」という飛び込みの申し出がきっかけで、1年半後、本堂を利用する事になった。

今の世は、世界終末時計が2分半をさし、タカ派首相や独善主義な過激国のトップ達に不穏な気配を感じる。こんな時こそ改めて戦争の愚かさを考えてみましょう。

会場貸与やスタッフ協力等、関心のある方は下記までご相談を。

主催「京都原爆展を成功させる会」  
事務局連絡先 〒6068135 京都市左京区吉田近衛町 26 - 38  
TEL 09070901804(事務局・中村)  
(編集委員・横田 典)

『原爆と戦争展』

## 京都教区教化レポート

### 【京都教区准堂衆会】

京都教区准堂衆会は発足以来、声明・儀式・作法の研鑽・修練を行うこと、儀式・行事を通じて教化を推進すること、指導者の養成と相互の親睦をはかることを目的として様々な活動をしております。

定例会での声明練習、会員対象の講習会、女性声明講習会、本会准堂衆が担当する「声明の会」の御稽古、公開講座の開催、別院や普通寺院への法要儀式への出仕・奉仕等があります。

毎年開催している公開講座は、昨年度までは年に一回でしたが、内容を精査し、充実をはかるため、今年度は二回の開催としました。

これまでに多くの方からご要望のあった「大谷派の装束作法」をテーマに、本山内事部の山口昭彦先生を講師にお招きして、九月には講義、十二月には装束の着装・実践に特化した講座とし、大谷派の儀式、装束の歴史や衣体の変遷、着装の仕方・作法等を学びました。いずれも多くのご参加があり、関心の深さうかがえました。

今後も様々な活動してまいりますので、関心のある方はどうぞご参加ください。

(京都教区准堂衆会会長 七里 直一)

## 事務連絡

### 《住職任命》

二〇一七年二月二十八日付  
 近江第八組 安樂寺 相馬 基  
 山城第一組 圓徳寺 佐藤 亮一  
 「届出順」  
 「敬称略」

### 《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第四組 瓊蔵寺前住職 藤池 英澄  
 二〇一七年二月二日 九十一歳  
 「敬称略」

### 《二〇一七年安居開設について》

本講 講本 『蓮如上人御一代記聞書』  
 講者 嗣講 大桑 齊 氏

次講 講本 『後世物語聞書』  
 講者 擬講 木越 康 氏  
 (大谷大学名誉教授)

期間 二〇一七年七月十七日(月・祝)

〓三十一日(月)

※ただし、七月二十三日(日)は休講日  
 会場 開講式・満講式は真宗本願  
 講義・攻究は大谷大学

※詳細につきましては、『真宗』誌四・五月号をご参照ください。

※要項および願書につきましては、五月上旬以降に京都教務所または本山教育部までお問い合わせください。

### 《東本願寺出版刊行物のお知らせ》

『あなたへのメッセージ②  
 成人したあなたへ』

成人を迎えた方に送るメッセージ本。長年教育の現場で子どもたちと日々向き合ってきた真城義磨さんによるあたたかいメッセージです。



著者 真城 義磨  
 価格 三二四円  
 (税込)

### 《表紙写真》

河野 恵嗣 氏(石東組 善徳寺)

■ 京都教区教化テーマ ■

今いのちがあなたを生かしている  
 命に感謝 いのちの声 感謝かいのちのめぐり

◆ 教区事業予定

4月 3日(月)	14:00～17:00	同和協議会運営委員会	会場◇教区会館3F	研修室
4月 5日(水)	13:00～17:00	教区改編地方協議会	会場◇長浜教務所	
4月13日(木)	13:30～17:00	出版小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
4月17日(月)	13:00～15:00	子ども会サポート研修会	会場◇岡崎別院	
4月26日(水)	9:00～17:00	児童大会下見	会場◇八ヶ峰家族旅行村他	

◆ 地区・団体事業予定

4月 7日(金)	19:00～20:30	仏教青年会声明講座	会場◇教区会館2F	大講堂
4月11日(火)	14:00～	推進員協議会役職者一泊研修会	会場◇福井県若狭町	
～12日(水)	～12:00	〃	会場◇	〃
4月11日(火)	15:00～18:00	准堂衆会研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
4月12日(水)	18:00～20:00	准堂衆会声明会	会場◇教区会館3F	研修室
4月14日(金)	13:30～16:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
	15:30～18:00	大谷保育協会	会場◇教区会館3F	研修室
4月19日(水)	9:00～16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講堂
4月26日(水)	18:00～20:00	准堂衆会声明会	会場◇教区会館3F	研修室

「教区だより」第341号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2017(平成29)年4月1日

発行人 錦 秀見(真宗大谷派京都教務所長)

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164

京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel: 075(351)5260

Fax: 075(351)5256

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

長男の卒業式に行ってきた。自分の母校でもある小学校の校舎は当時と変わっていない。懐かしさを感じながら体育館へ入ると、児童数の少なさに月日の経過を感じる。全校児童数は百人を下回り、卒業生は十二名。▼六年前の入学式の様子を思い出しながら、十二名のそれぞれの成長が頼もしくもあり、寂しくもある。少人数であっても、涙を浮かべながらの歌声が、寒さの残る体育館を温めていた。

(編集委員 藤川 秀行)